



拓本体験

当センターでは学校、同好会、サークル等へ出張しての文化講座、出前授業を行っています。ご希望する組織の方は下記の連絡先・担当に連絡ください。受け付けは平日（年末年始は除く）の午前9時から午後5時までです。

電話 0567-67-4164 担当 佐藤・鶴飼

朝日（あさひ）遺跡：清須市から名古屋市にかけて所在する東海地方最大級の弥生時代集落遺跡。この遺跡から出土した2028点の遺物が平成24年に国の需要文化財に指定されている。

清洲城下町（きよすじょうかまち）遺跡：清須市に所在する戦国時代から江戸時代の遺跡。戦国時代は尾張地方の中心として織田信長の拠点であった時期もある。江戸時代は名古屋から加納（現在の岐阜市）にいたる美濃路街道の宿場町として栄えた。

赤彩（せきさい）土器：弥生時代に尾張地方で特徴的に見られた赤色に塗られた土器。

INAXライブミュージアムの方が、遺物の借用のために訪れました。

調査研究課の鶴飼です。

11月30日（木曜日）INAXライブミュージアムの方が企画展「天然黒ぐろー鉄と炭素のものがたり」に出品する遺物の借用のために訪れました。今回貸し出された遺物は、清洲城下町（きよすじょうかまち）遺跡（清須市）で出土した木胎漆器椀（もくたいしきわん）です。

INAXライブミュージアム企画展「天然黒ぐろー鉄と炭素のものがたり」は、12月9日（土曜日）から平成30年4月10日（火曜日）まで、INAXライブミュージアム「土・どろんこ館」にて開催中です（祝日を除く毎週水曜日、12月26日（水曜日）から平成30年1月4日（木曜日）は休館です）。是非お出掛けください。



清州城下町遺跡: 清須市に所在する清洲城とその城下町に関連する遺跡です。清須は戦国時代から江戸時代の初めに城下町が名古屋へ移転するまで150年近くの間、尾張地方の中心都市として栄えました。

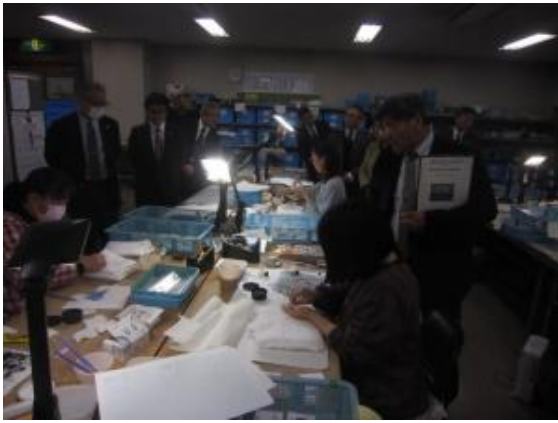
木胎漆器椀: 素地(そじ、漆を塗るための土台)に木を使った漆椀(うるしわん)のことです。清洲城下町遺跡では戦国時代(15世紀後半)から江戸時代初め(17世紀初め)の漆椀などが多数出土しています。

海部東部教育委員会連絡協議会の方々施設見学に訪れました。

12月1日(金曜日)、海部東部教育委員連絡協議会の方々、12名が当センターを訪れました。

初めに所長が当センターの業務を紹介した後、**センター内の各施設の見学を行いました。**まずは1階のフロアでは、復元銅鐸の音の響きに驚き、第一次整理室では縄文土器の拓本を取る作業を見て、その文様の見事さに感心しておられました。2階の出土遺物の展示のコーナーでは所長の解説に興味深く耳を傾け、3階では収蔵庫にある収蔵遺物の多さと、昔の生活を復元するための様々な機器がそろう科学分析室に驚かされていました。

最後は**出土土器に触れてもらいましたが**、様々な形の土器や色鮮やかな赤彩土器に感心し、復元した土器と出土した土器の重さの比較では出土した土器の軽さに驚き、昔のもの造りの技術の高さに感激しておられました。



第一次整理室見学



収蔵庫C見学



土器に触れる

当センターでは研究会などの施設見学を受け付けております。実施は原則、平日の10時から3時までの間となります。ご希望する組織の代表の方は、下記の連絡先に連絡ください。なお受付は平日の9時から5時までの間です。

愛知県埋蔵文化財調査センター 調査研究課

担当 鶴飼・佐藤

連絡先 電話 0567-67-4164

愛知黎明高等学校オープン講座2017に参加しました。

11月12日(日曜日)、**愛知黎明高等学校**で開催された**オープン講座2017**に参加しました。講座には在校生、保護者の方々等、14名が参加しました。

はじめに朝日(あさひ)遺跡の概要を説明した後に、**朝日遺跡等から出土した土器に実際に触れてもらいました**。受講された皆さんは土器に触れながら赤彩(せきさい)土器の鮮やかな色合いに見入ったり、円窓付(まるまどつき)土器の形やS字甕(えすじがめ)の重量の軽さに驚いたりしていました。特に円窓付土器に「窓」がついている理由を熱心に語り合っていました。

最後の講座は**火起こしを体験**です。2人1組になり、担当者から留意点を聞いたのちにチャレンジしました。はじめからすぐに煙を出せた組もあれば、なかなかうまくいかない組もありましたが、最後は参加した方々の全てが煙まで出すことが出来ました。

受講した方々は短い時間でしたが、弥生時代を満喫したようでした。



朝日探訪



朝日に触れる



火起こし体験

当センターでは学校や同好の方々が主催する勉強会等への出前授業や講座を受け付けています。ご希望の方は是非とも申し込んでください。受付は平日の午前9時から午後5時までで連絡先は下記のとおりです。

連絡先 愛知県埋蔵文化財調査センター 調査研究課 TEL 0567-67-4164

担当者 佐藤・鶴飼

朝日(あさひ)遺跡:清須市から名古屋市西区にかけて所在する東海地方最大級の弥生時代の集落遺跡。遺跡内の貝殻山(かいがらやま)貝塚は昭和46年に国の史跡に指定されている。また平成24年には出土遺物2028点が国の重要文化財に指定された。

赤彩(せきさい)土器:尾張地方特有の赤く彩られた弥生土器。その優雅な姿から「パレス式土器」とも呼ばれる。

円窓(まるまど)付土器:壺(つぼ)の形をした土器の体部に丸く穴があいている尾張特有の弥生土器。

S字甕(えずじがめ):口の部分が受口状で断面が「S」字であることからこの名前が付く古墳時代の甕。

11月21日(火曜日)、暮らしの学校「土器から学ぶ文化財の楽しみ方」の方々が愛知県埋蔵文化財調査センターを訪れました。

調査研究課の鶴飼です。

11月21日(火曜日)、暮らしの学校「土器から学ぶ文化財の楽しみ方」の方々11名が愛知県埋蔵文化財調査センターを訪れました。はじめに調査センターの役割を説明した後、館内を見学していただきました。受講生の皆さんは遺物整理作業の様子や展示施設を見学し、愛知県埋蔵文化財センター職員の科学分析の説明を熱心に聞いておられました。

館内の見学後は朝日遺跡から出土した赤彩土器をはじめとするさまざまな遺物に直接触れて、その質感や重量を感じていただきました。受講生の皆さんからは時折鋭い質問や指摘をいただき、職員も大いに勉強になりました。体験後も土器を囲んで話が弾み、遺物展示も時間が過ぎるのを忘れるほど熱心に見入っておられました。



館内見学の様子



土器に触れる

当センターでは、グループでの見学を受け付けています。希望されるグループの代表の方は事前に下記の連絡先に連絡を入れてください。

連絡先

愛知県埋蔵文化財調査センター 連絡先 電話0567-67-4164

(受付は平日午前9時から午後5時まで)

担当者 佐藤・鶴飼

朝日(あさひ)遺跡:東海地方最大級の弥生時代の集落遺跡。清須市から名古屋市西区に所在する。

赤彩土器(せきさいどき):土器の表面をベンガラを使い赤く塗った土器で、尾張地方西部に特徴的にみられる。

秋の特別公開2017を開催しました

調査研究課の岡田です。

10月30日(月曜日)から11月12日(日曜日)まで「**秋の特別公開2017**」を開催しました。開催期間中は138名の方が来館されました。朝日遺跡出土の重要文化財4点の展示と**拓本体験**を行いました。重要文化財4点には「美しい土器だね」という感想もいただきました。また、**拓本体験**は子どもから大人まで楽しんでいただけたと思っています。

今回は新聞で「**秋の特別公開2017**」が取り上げられたこともあり新聞を見てきてくださった方もいらっしゃいました。また、11月9日には「FMななみ」に出演し、朝日遺跡出土重要文化財4点の魅力や拓本体験についてお話しましたが、ラジオを聴いて来てくださった方もいたのでしょうか？

弥富市の「2018やとみ春まつり」に合わせ、「**春の特別公開2018**」を行う予定です。開催が決定しましたらホームページなどでお知らせしますのでぜひ当館へお越しください。



左:拓本体験の説明をします

右:拓本体験に挑戦する子どもたち

北野田B遺跡発掘調査始まりました

調査研究課の岡田です。

平成29年10月25日より**北野田B遺跡**の発掘調査が始まりました。昨年も**北野田B遺跡**を調査していますが、昨年度の調査では、主に中世の木製品や山茶碗が出土しています。今年度は昨年度調査区の北側斜面です。事前の試掘で旧石器時代の石器が出土しているため今回の調査でもその期待が高まります。

発掘調査の開始直後、ある作業員さんが、表土を荒く取り去った後、手ガリで丁寧に表土を削っていたところ**石鏃(せきぞく)**を発見しました！石鏃は1センチ四方に収まってしまう小さなものでしたが、丁寧に加工されていました。発掘現場では喜びの声が上がりました。

次は何が出土するのでしょうか？山の中の調査区は少しずつ寒くなっていきますが、調査員の気持ちはますます熱くなっていきます。



左:石鏃発見！

右:石鏃を発見した作業員さん。石鏃の出土は立っている足元あたりからです。

手ガリ:本来農具、園芸用具で草刈ホーなどの名称で呼ばれるもの。発掘現場では表面の土を薄く削り、遺構(建物の

柱跡、溝などの痕跡)や遺物を探すための必需品。作業をしやすくするため作業員さんの手ガリの刃はナイフ

並みに鋭く砥いであります。

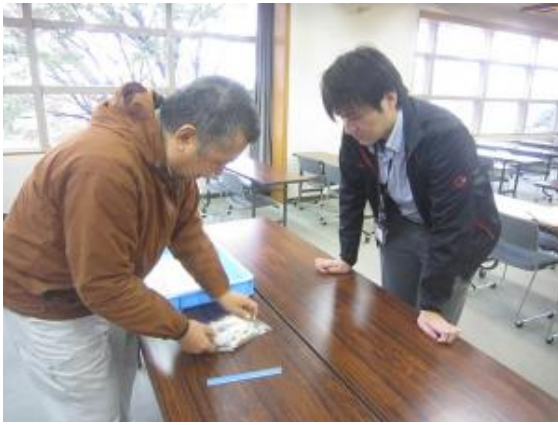
石鏃 :石器の一つで、石材でつくられた矢じり。

新城市中山砦跡の出土遺物が、新城市に譲与されました。

11月8日、**新城市の中山砦(なかやまとりで)跡**で出土した**鉄鏃(てつぞく)**が地元で活用するため**新城市に譲与されました。**

中山砦跡は**新城市乗本(のりもと)**に所在し、**長篠(ながしの)城**をのぞむ**宇連川(うれがわ)**の東岸尾根上に立地します。天正3(1575)年に起きた長篠の戦いでは武田勝頼の軍勢が砦を構えたと文献で伝えられています。平成22年に第二東名高速建設に伴う発掘調査が行われ、戦国時代の堀切と土塁が確認され、鉄鏃も出土しました。

鉄鏃は今後、**新城市設楽原歴史資料館**で保管され、**長篠の戦い**で使われた貴重な遺物として展示紹介される予定です。



遺物譲与の様子

譲与: 愛知県埋蔵文化財調査センターで保管する出土遺物は、遺跡が所在する市町村で展示などに活用するため、譲与されることがあります。今回の譲与で8市1町、79遺跡の遺物が譲与されました。

長篠の戦い: 天正3年5月21日、織田信長・徳川家康連合軍と武田勝頼の軍勢が、長篠城をめぐり争った戦い。決戦場となった設楽原(したらがはら)の戦いを加え、長篠設楽原の戦いとも呼ぶ。

武田勝頼: 甲斐(かい)国の戦国大名、武田信玄の子。信玄の死後家督を継ぐが長篠の戦いで敗れた。天正10(1582)年に起きた天目山(てんもくざん)の戦いで織田方に敗れ自害し、甲斐武田氏は滅亡した。

愛知県陶磁美術館の方が遺物の借用のために訪れました。

10月27日(金曜日)、愛知県陶磁美術館の方が特別企画展「染付: 青繪(あおえ)の世界」に出品する遺物の借用のために訪れました。

貸し出されたのは鶯(うぐいす)窯跡(瀬戸市)の出土遺物です。この窯跡から出土した灰釉鉄彩七宝文八稜皿が現在展示されています。

特別企画展「染付: 青繪の世界」は11月3日(祝日)から平成30年1月14日(日曜日)まで、愛知県陶磁美術館にて開催中です(毎週月曜日は休館です)。是非お出でください。



借用の様子

世界染付の青繪

Sometçuqe A Genealogy of Blue-and-White

2017年11月3日(金・祝)
—2018年1月14日(日)

愛知県陶磁美術館
特別企画展



Sometçuqe (染付)：繪(彩)のあはれあはれ(青繪)のち

—これは愛知県(2015年)に日本を代表して博覧された「染付」のあはれあはれ(青繪)のち—

「染付」は、白磁の地に藍色の絵で飾る陶器。江戸時代中期に、中国の青花磁器を模倣して作られた。その後、日本独自の発展を遂げた。この展覧会は、染付の歴史と文化を、愛知県の陶磁器の発展と関係性を軸に紹介する。また、愛知県の陶磁器の発展と関係性を軸に紹介する。また、愛知県の陶磁器の発展と関係性を軸に紹介する。



安城市歴史博物館の方が、遺物の借用のために訪れました。

10月26日(木曜日)、安城市歴史博物館の方が市制施行65周年記念特別展「発掘された日本列島2017」に出品する遺物の借用のために訪れました。

「発掘された日本列島2017」は文化庁・安城市歴史博物館等の主催で、全国各地で発掘調査された遺跡のうち、近年考古学的・歴史的に貴重な成果があった遺跡をいち早く紹介するため、全国を巡回して行われる展覧会です。今回貸し出されたのは寄島(よせじま)遺跡・惣作(そうさく)遺跡(ともに安城市)で出土した弥生土器や木製品、島田陣屋(しまだじんや)遺跡(新城市)で出土した人面付土器など10点です。

安城市市制施行65周年記念特別展「発掘された日本列島2017」は、11月18日(土曜日)から平成30年1月12日(金曜日)まで、安城市歴史博物館にて開催します(毎週月曜日は休館です)。是非お出でください。



借用風景

市制施行65周年記念特別展
発掘された日本列島 2017
 新発見考古速報

花の蔭に沈んだ逆襲の軍艦 開陽丸
 心臓を身に抱えてつばう
 古墳群北の地に現れた大集落
 地域展 「倭人発見!! -東海の人面文と安城の人面文-」

縄文時代前期 漆塗り土器の最高傑作
 発見40周年! 倭人の姿を今ここに

平成29年 11月18日(土)~12月24日(日)
 観覧料:400円(中学生以下半額) | 観覧日数制限: | 観覧時間:9:00~12:00 入館:10:00まで
 (第1会場:歴史博物館企画展室) (第2会場:市民ホール9F-展示室A・B・C)

愛知文化のぞく 安城市歴史博物館
 Aichi City Museum of History

日本全国の注目遺跡の資料 約480点が勢揃い!
 史跡石塚古墳 神明遺跡 高根遺跡 西門身田古墳 史跡・名勝飛鳥京跡 857町遺跡

「倭人発見!!-東海の人面文と安城の人面文-」
 安城市東部の飛鳥遺跡から重要文化財人面文壺が発見されて今年で40年になります。この土器は、人面文土器群のうちのひとつで、当時の飛鳥から重要な資料です。
 今回は、地域展として、人面文土器を中心に東海地方の人面文土器と安城市の飛鳥遺跡から出土した人面文土器を紹介するともに、遺跡の発掘経緯を紹介します。

特別観覧券請求書
 「発掘された日本列島2017のみどころ」 「中考古学の世界を語ろう」
 講師: 鳥居一貴(愛知大学博物館 北野科学館) 講師: 山本浩二(愛知大学博物館)

「東海の人面文と安城の人面文」
 講師: 山本浩二(愛知大学博物館) 講師: 鳥居一貴(愛知大学博物館)

愛知文化のぞく 安城市歴史博物館
 Aichi City Museum of History
 〒466-8502 安城市歴史博物館(市民ホール9F)
 〒466-8502 安城市歴史博物館(市民ホール9F)
 〒466-8502 安城市歴史博物館(市民ホール9F)
 〒466-8502 安城市歴史博物館(市民ホール9F)
 〒466-8502 安城市歴史博物館(市民ホール9F)

11月5日(日曜日)、談話会「教育と文化」の方々が愛知県埋蔵文化財調査センターを訪れました。

11月5日(日曜日)、談話会「教育と文化」の方々が愛知県埋蔵文化財調査センターを訪れました。館内を見学していただいた後、朝日遺跡から出土した赤彩土器をはじめとするさまざまな遺物に直接触れて、その質感や重量を感じていただきました。その後、職員が「本物にふれる歴史学習」をテーマに当センターがおこなっている普及・活用事業を説明し、参加者の皆さんから有意義な御意見や御感想をいただきました。いただいた御意見を参考にして今後も普及・活用事業を積極的に行っていきたいと思いをしました。



館内見学の様子



談話会「教育と文化」のみなさん

当センターでは、グループでの見学を受け付けています。希望されるグループの代表の方は事前に下記の連絡先に連絡を入れてください。

連絡先

愛知県埋蔵文化財調査センター 連絡先 電話0567-67-4164

(受付時間は午前9時から午後5時まで)

担当者 佐藤・鶴飼

朝日(あさひ)遺跡: 東海地方最大級の弥生時代の集落遺跡。清須市から名古屋市西区に所在。

赤彩土器(せきさいどき): 土器の表面をベンガラを使い赤く塗った土器で尾張地方西部に特徴的にみられる。

高蔵寺高校が施設見学のため来館しました。

調査研究課の岡田です。

10月26日に**愛知県立高蔵寺高等学校**の生徒・引率の先生24名が来館しました。最初に「歴史学を学ぶには」という講座を開き、歴史を学ぶ意義や大学などで歴史学を学んだあと将来の進路へのつながりを考えてもらいました。次に当館の施設案内で、一次整理室や木製品などが管理されている特別収蔵庫、科学分析室を見てもらいました。

最後は、本物の遺物に触れてもらいました。**朝日遺跡**(清須市・名古屋市)出土の弥生土器だけでなく、**清洲城下町遺跡**(清須市)から出土した「金箔(きんぱく)の貼った瓦」、石座(いわくら)神社遺跡(新城市)の調査で出土した長篠(ながしの)の戦いで用いられた「鉄砲玉」なども見てもらいました。

普段は博物館などでケース越しにしか見ることのできない「本物」を見て最初は怖ごわ、あとは関心をもって楽しみながら土器を手にとっていました。

短い時間でしたが、生徒のみなさんに喜んでもらえるとうれわれ職員も仕事のやる気が増します。